

## 事業活動報告

### クロマツ病虫害防除研修会

企画・事業委員会 委員長 有田和實

平成 22 年 2 月 13 日（土）に第三回技術研修会を行った。

一昨年来、千葉県内においてマツ枯れ症状が散見されてきた。昨年は「富津公園」でクロマツ病虫害防除作業の委託を受け、多くの会員に協力を得て大きな成果を得た。

今年度の第三回目の研修会は、「マツ病虫害防除実習」を、小雪舞う習志野市で開催し 16 名が参加した。NPO 会員の努力で、習志野市のマツの樹勢を点検調査し、防除計画を提案したところであった。本提案に、習志野市から「実花緑地マツ病虫害防除委託」の依頼を受け、防除作業を実施することとなり、習志野市のご好意により、NPO 会員を中心にした研修会と位置付けた。（写真 1～4）



（写真 1. 研修内容の説明—有田和實樹木医）



（写真 2. 薬剤打ち込み状況の説明—山崎樹木医）



（写真 3. 穿孔作業—大木・石橋樹木医）



（写真 4. 薬剤注入実習—東京から参加した中村樹木医）

昨夏調査時点から、4ヵ月で 30 本/276 本ほどが枯死症状を示し、研修実習時点までに伐採されていた。今回の防除委託作業結果を踏まえ、今秋に防除結果を検証する予定である。

## 事業活動報告

### 秋季研修旅行

企画・事業委員会委員長 有田和實

恒例となった本年の研修旅行は、群馬・栃木県を研修して回った。数日前の天気予報では荒天の予報だったが、研修前日（12 月 5 日）に伊香保では雪になった、おかげ？で研修日（12 月 6 日）は小春日和の好天だった。翌日は「赤城嵐」（例年は正月頃から吹き下ろすそうです）の快晴の中で研修を行った。

#### 1. 第 1 日目研修（12 月 6 日（日））

千葉駅を 08:15 に 18 人の会員を乗せ一路上州へ向かった。群馬県樹木医会の田川隆太郎樹木医の案内で、錦秋の終わった

初冬の上州路を散策した。

### 「<sup>つなと</sup>連取りの笠マツ」

北関東道・駒形 I C で田川樹木医と待ち合わせ、最初に「連取りの笠マツ」に行き、雄・雌の巨大な古木に圧倒された(写真1)。また、ここに郡山(福島県)から藤田会員が駆け付け研修会に合流した。



写真2) 横室の大カヤ

全国一に格付けされている大カヤ。1,000年を経てもなお樹勢旺盛である。短い冬の夕日を浴びて、観察する会員の影がクッキリと巨樹根元に映えている。樹下一面に足の踏み場もないほどの実が落ちていた。



(写真1. 連取「つなとり」の笠マツ「雄松」の前で集合写真)

### 「ぐんまフラワーパーク」

昼食は「ぐんまフラワーパーク」(石橋樹木医が指定管理制度でパーク全体の管理運営をしている)で済ましてから、石橋樹木医の案内で 14.8ha の園内を研修した。

### 「横室の大カヤ」「たわらスギ」

宿への途中、樹齢 1,000 年を超える「横室の大カヤ」(樹勢旺盛)や、赤城神社の「たわらスギ」の巨木を観察した。赤城神社では、社殿奥から湧き出す清水でのどを潤し、古の文人たちが逗留した名湯伊香保温泉「千明仁泉亭」に向かった。

宿では、肩まで沈む温泉や地元特産の美味しい料理を食しながら、地元群馬県樹木医と夜遅くまで意見交換を行った。

## 2. 第2日目研修(12月7日(月))

### 「邑楽町・高島小学校のトウグミ」

身を切るような寒さの中、伊香保温泉をあとに2日目の研修に出かけた。北関東自動車道・太田桐生 I C で群馬県支部長の熊倉弘樹木医と合流し、熊倉樹木医がかつて治療した「邑楽町・高島小学校のトウグミ」の説明を受けた(写真3)。



(写真3. 高島小学校トウグミ研修・熊倉樹木医) 40

「群馬県緑化センター（写真4）」  
「つつじが岡公園」「茂林寺」



（写真4. 群馬県緑化センター「ミツデカエデ」  
次に館林市に移動し「つつじが岡公園」の  
ツツジ巨古樹を観察した。その後、文福茶釜  
で有名な茂林寺開創時（応永 33 年）に植栽  
されたと伝えられているラカンマキ・ヒイラ  
ギや観音様建立時（元禄 3 年）に植栽されたと  
伝えられるサワラ 3 本の古木を観察した  
（写真5）。



（写真5. 堂宇前のシダレザクラのコフキタケに  
ついて熊倉樹木医を交え意見交換する）

「あしががフラワーパーク」

「あしががフラワーパーク」で昼食をとり、  
移植から園の運営まで携わった園長の塚本こ  
なみ樹木医の案内で（写真6）、フジの移植か  
ら樹勢回復・維持・開花促進について詳しい  
説明を受けた。会員から大フジの育成方法や  
開花方法について質問攻めにされたが、丁寧  
な説明がされた。



（写真6. あしががフラワーパーク・大フジの研修：  
説明は塚本こなみ樹木医）

この後、千葉に向け帰路につき、2日間の  
研修は有意義に、かつ楽しく、美味しく修め  
る事が出来た。

■ 面白い幹模様



樹木医 富塚武邦

スダジイの面白  
い幹模様です。幹  
肌は黒灰色で縦に  
割れ目が入り、ス  
ダジイの特徴を見  
せています。1975  
年ごろに造成され  
た公園に植栽され  
ていますので、樹齢は40~50年くらいと推定  
されます。目通り周は90cmほどで、同時期に  
植えられたスダジイより少し太さは劣りますが、  
病害虫の被害や幹の損傷もなく、堂々としてい  
ます。

どうしてこのように変わった幹模様が出現す  
るのでしょうか。盆栽にも疣幹、捩幹、荒皮性、  
がんせきしょういぼかん ねじかん あらかわしょうと  
呼ぶ幹肌があり、観賞の対象として  
いますが、単なる突然変異や個性と答えるので  
は面白くありません。成因、理由等をいろいろ  
考えてみることも楽しいと思います。

千葉市JR都賀駅東口から徒歩2~3分の都  
賀公園で元気に生育しています。